

令和4年度学校評価の結果

令和4年度北海道北斗高等支援学校の学校評価です。教職員をはじめ、保護者・地域関係者の皆様からいただいた様々な評価を今後の教育活動に生かしてまいります。今後ともよろしく願いいたします。

A「とても良い」・・・ポイント4 B「ほほ良い」・・・ポイント3 C「やや改善を要する」・・・ポイント2 D「改善を要する」・・・ポイント1

《教職員》		※回収率100%	
NC	評価項目	評価項目	平均
1	学校運営	校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。	3.3
2	学校運営	学校運営に、教職員の意見が反映されている。	3.2
3	学校運営	教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的・効率的に取り組める環境にある。	3.1
4	学校運営	教務、事務等、各部門の連携が円滑に行われ、有効に機能している。	3.2
5	会議	職員会議をはじめ各種会議が、情報共有と課題検討の場として有効に機能している。	3.2
6	共通理解	教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	3.0
7	サービス	教育公務員としてのサービス規律保持への自覚が高い組織となっている。	3.3
8	危機管理	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、マニュアルが整備され、役割が明確化されている。また、事故等への対応後、再発防止対策が講じられている。	2.8
9	施設・設備	生徒の活動の場に対して、日常的に点検や管理が行われ、常に整備されている。	3.3
10	上磯高校との連携	「協和」のもと連携した教育活動がなされている。	2.6
11	分掌組織	各分掌部の業務内容は適正に分担され、業務の偏りなく円滑に進められている。	3.3
12	働き方改革	勤務時間を意識した働き方ができており、心身のバランスが保てる働き方ができている。	3.1
13	教育課程	学校教育目標「勤い心を持ち 豊かに生きる力 たくましく働く力を育成する」を具現化するための教育課程の編成及び、教育活動の推進に努めている。	3.1
14	教育課程	北斗版デュアルシステムを中心とした、地域と連携・協働した教育活動が計画的に実施されている。	3.4
15	教育課程	主体的・対話的で深い学びの中で、社会生活に関連した生きて働く知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の育成がなされている。	3.0
16	個別的教育支援計画	個別的教育支援計画が、記入、活用、評価にあたって、教職員・保護者・関係機関等で活用されている。	3.0
17	教材教具	生徒の理解度や特性に応じた学習教材の充実が図られている。	3.2
18	地域との連携	地域の行事等に参画し、地域との交流を深めることを意識した取組がなされている。	3.0
19	PTA	生徒の健全な成長を図ることを目的とし、保護者と教職員相互が理解を深めながら活動することができている。	3.2
20	情報教育	コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動の充実がなされている。	3.2
21	研修	校内での研修計画や研修会に積極的に参加するなど教職員が資質向上に努めている。	3.2
22	生徒指導	家庭や地域及び関係機関等と連携・協働しながら、生徒一人一人を大切に教育活動が行っている。	3.3
23	生徒指導	教職員は、挨拶、身だしなみ、言葉遣い等生徒の模範となるよう努めている。	3.2
24	生徒指導	生徒の発達段階や個別の課題に応じた生徒指導(ルール、モラル、性教育、礼儀等)を適切に行っている。	3.1
25	学校行事・生徒会活動	学校行事、生徒会活動を通じて望ましい人間関係を育て、学級や学年集団の一員として、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度の育成に努めている。	3.3
26	保健・安全	日常の健康観察や疾病の予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組が適切に行われている。	3.3
27	進路指導	望ましい職業観・勤労観を育むため、就業意識や進路意識の啓発・高揚に努めている。	3.5
28	進路指導	自らの生き方の選択に向けて、自己の能力、特性を理解し、将来の進路や生き方について考え、学習する態度の育成に努めている。	3.3

29	進路指導	生徒の実態を考慮し、3年間を見通した進路指導の全体計画が作成されている。	3.4
30	進路指導	学校全体に対して必要な進路情報が的確に伝えられている。	3.5
31	進路指導	職場実習の企画・実施・改善が適切に実施されている。	3.5
32	進路指導	学年や学科と家庭との進路に関する連携が密に行われている。	3.3
33	会計	担当者のみでの管理ではなく、会計についての相互牽制がなされ、校長が決裁するシステムとなっている。	3.5
34	公文書	公文書の收受、発送、保管に対する管理が適切になされている。	3.5
35	公文書	学校から保護者等外部宛てに公文書を発出するにあたって、校長が決裁するシステムが適切に行われている。	3.6
36	特別支援教育	特別支援教育推進について、全職員が理解し、積極的に取り組まれている。	3.3
37	特別支援教育	特別支援学校による地域のセンター的機能が職員の共通理解の基に取り組まれている。	3.4
38	特別支援教育	校内外の支援体制が有効に機能している。	3.3
39	人権	生徒が生命の大切さや社会のルールを身に付けることができるよう、年間指導計画に基づいた指導を行っている。	3.2
40	人権	日常の教育活動において、体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づく教育が行われている。	3.2
41	合理的配慮	生徒、保護者の願いを受け止め、実施可能な合理的配慮の内容や方法について合意形成を図り、教育活動を実施している。	3.2

《保護者》

※回収率74%

1 学校経営に関する評価 <>内の記入は取り組んだ内容の一部が記載されています。

NO	評価項目	評価項目	平均
1	危機管理	学校は、台風や暴風雨等の災害や事件・事故、不審者情報などの緊急時の対応について、生徒や保護者に対応の仕方を知らせている。 <自然災害の発生、Jアラートによる警報の発生、職場実習時の悪天候時など一斉メールや文書を配付しています。>	3.8
2	施設・設備	学校は、施設・設備面での環境整備を十分に行っている。 <月一回の安全点検を実施し、不良箇所を改善しています。>	3.6
3	開かれた学校	学校は、保護者が授業を参観する機会を十分に設けている。 <PTA総会、学校祭等、可能な範囲で参観する機会を設けています。>	3.9
4	個別の教育支援計画	学校は、個別の教育支援計画を適切に作成し、活用されている。 <同意を得て、保護者の意向を反映して作成しています。>	3.8
5	文書	学校が保護者に出す文書・事務連絡等は、適切である。 <事務連絡、行事等に係る文書を適宜配付しています。>	3.8
6	情報管理	学校では、生徒に関するプライバシー(個人情報)が守られている。 <入学時に行った事前調査をもとに必要なに応じて随時確認しています。>	3.8
7	地域交流	学校は、生徒が地域の人たちと交流できる機会を設けている。 <職場実習や文化祭等地域行事に積極的に参加する場面を設けています。>	3.8
8	PTA	学校では、活発なPTA活動が行われている。 <レクリエーション、研修会、PTAだより発行等を企画しています。>	3.8
9	事務	学校の事務は、必要な事項をわかりやすく説明し、ていねいに対応している。 <必要に応じた文書の配付や随時電話での質問など個別に対応しています。>	3.7

2 教育活動に関する評価 <>内の記入は取り組んだ内容の一部が記載されています。

NO	評価項目	評価項目	平均
10	生徒の様子	生徒は、学校に行くことを楽しみにしている。 <生徒のニーズを捉えた教育活動を工夫しています。>	3.2
11	学習の様子	生徒は、授業やその他の活動が楽しく、わかりやすく、達成感があると言っている。 <視聴覚機器の活用や、日常生活に活用できる題材を意識して授業に取り入れています。>	3.2
12	相談・理解	教職員は、生徒の発達や特性などについて、よく理解している。 <各種研修会への参加を積極的に推奨し、日常ではケース会議等を行い、実態把握に努めています。>	3.5
13	相談・理解	教職員は、生徒や保護者からの相談に適切に応じて情報提供を行っている。 <担任を中心に機を逃さず随時必要に応じて行っています。>	3.8
14	相談・理解	学校は、保護者の願いに応えた教育活動を行っている。 <保護者懇談期間を設けるなど、願いを生かすように努めています。>	3.7
15	相談・理解	学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。 <担任は、学級通信、連絡帳を活用し、必要に応じて面談を設けています。>	3.5

16	生徒指導	教職員は、いじめや暴力等のない学習集団づくりに取り組んでいる。 ＜定期的ないじめアンケートを行い、いじめの早期発見や未然防止に努めています。＞	3.7
17	情報提供	学校生活の様子や学習の内容を懇談や通信、学校だよりなどによって、十分に知ることができる。 ＜定期的、随時必要に応じて取り組んでいます。＞	3.7
18	情報提供	学校は、教育方針や教育内容をわかりやすく保護者に伝えている。 ＜宿泊研修、職場実習などの説明会等で付随する学習の目的や内容を説明しています。＞	3.7
19	評価	教職員は、生徒の学習状況や努力・成果を適切・公平に評価している。 ＜学習の評価の観点を整理し、複数の教員による評価、全体での成績会議を行っています。＞	3.6
20	評価	通知表は、生徒の学習状況を適切に評価できるように工夫されている。 ＜個別の教育支援計画を基に作成された個別の指導計画と評価を合わせた通知表にすることで、適切な課題設定と評価を工夫しています。＞	3.7
21	教育活動	学校は、生徒に主体的・対話的で深い学びの中で、社会生活に関連した生きて働く知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の育成の場を提供している。 ＜教育活動全般を通して、常に社会生活との関連を意識して取り組んでいます。＞	3.7
22	人権	学校は、生徒の発達や実態に応じて、生命を大切にす心や、社会ルールを守る態度を育成している。 ＜ホームルームや道徳の授業を中心として、教材の選定、授業展開の工夫を行っています。＞	3.6
23	人権	教職員は、全ての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。 ＜人権教育を常に意識した指導を組織的に取り組んでいます。＞	3.6
24	合理的配慮	学校は、生徒の発達や実態に対応した適切な教育活動に取り組んでいる。 ＜生徒一人一人に応じた合理的配慮の提供をはじめとする指導を組織的に取り組んでいます。＞	3.6
25	上磯高校との連携	上磯高校との交流は、お互いの生徒にとって有益な活動となっている。 ＜行事、生徒会活動等を通して、交流が深まるように努めています。＞	3.4

《関係機関》

※回収率91%

NO	評価項目	評価項目	平均
1	学校教育目標	学校は、地域に対して教育目標や教育方針、教育内容をわかりやすく伝えている。 ＜職場実習などの学習の目的や内容を説明している。＞	3.5
2	地域交流	学校は、生徒が地域の人たちと交流できる機会を設けている。 ＜地域行事に積極的に参加する場面を設けている。＞	3.4
3	開かれた学校	学校は、地域の方が授業を参観する機会を十分に設けている。 ＜学校祭、四者協議会等や日常から参観する機会を設けている。＞	3.5
4	情報提供	学校は、地域へ学校だよりやホームページなどをおして、本校の教育活動について伝えることができている。 ＜学校だより、ホームページ、北斗市広報、新聞など＞	3.6
5	教育活動	学校の職場実習(デュアル実習)は、実習先の期待に十分に答えた教育活動になっている。 ＜デュアル実習は学校と地域で互恵的な教育活動となっている。＞	3.8
6	生徒指導	学校の職員は、生徒に対して適切な言葉や態度で指導を行っている。 ＜職員の働く姿勢は教育公務員として、地域の信用に応えている。＞	3.9